

御池通界わいの今と昔



地域の名所

二条城 (にじょうじょう) No.1

二の丸御殿六棟が国宝に指定

関ヶ原合戦・大坂の陣に勝利した徳川家康が二条堀川の西(現中京区二条城町)に建てた城です。慶長7(1602)年5月村越茂助を奉行として着工されました。

1603年 竣工(初代家康公)
1623年 完成(三代家光公)
1867年 大政奉還(十五代慶喜公)

神泉苑 (しんせんえん) No.2

御池通の由来となった場所

神泉苑は、平安京が造られた時、大内裏の南東に建設された苑池です。造営当時は、南北は二条通から三条通まで、東西は石碑の示す通りの広大な苑池でした。

御池通の名前の由来は、もともとこの神泉苑の池に通じていたことから江戸時代の中頃から御池通と呼ばれるようになりました。

二条陣屋(小川家住宅) (にじょうじんや) No.3

国の重要文化財

豊臣秀吉に仕えた伊予今治7万石の城主となった小川土佐守祐忠の長男千橋が、萬屋平右衛門と名乗って、この地で米、両替を商っており、その住宅として1670年に創建されました。

見学には予約が必要(中学生以下は見学不可)。申込先: 075-841-0972

昔のようす

二条駅は貨物駅として発展しました。そのため御池通は炭や薪、醤油等大きな場所が必要な問屋が多くありました。

二条駅の前は「飛脚さん」という職業があって、毎日竹かごを持って山陰からの物産を持ってきて売り、京都のみやげを買って帰られたそうです。

チンチン電車の終点がありました。

六角獄舎より罪人を東町奉行所、西町奉行所に連行する役人に、神泉苑通で待っている身内が情状酌量を願って役人の袖におひねりを入れたことが「袖の下」の語源になったそうです。

三条通には三条大映、三条館、日本座と3つの映画館がありました。

千本通は朱雀大路でした。

「三条城などにまつわる平安時代からの歴史も大事だけれど、今生きている私たちが覚えている身近な歴史を振り返ってみよう」と話し合い地域の歴史に詳しい方や地域にお住まいの方のお話をお聞きました。

御池通 懐かしの風景写真館

※1写真提供「目で見る京都の歴史(100年)」(錦土出版社)

二条城とチンチン電車(昭和36年撮影)

二条城(明治初期)

堀川御池より南を望む(昭和21年頃)

堀川で友禅染の板を洗う(昭和29年)

地域の祭

祇園祭

祇園祭の起源

貞観11年(869)に疫病が流行り、多くの御霊を鎮めるために66本(全国の国の数)の鉾を立て、神泉苑の池にくりこんで厄払いをする御霊会が行われました。これが現在の祇園祭の原点です。その際に、神泉苑まで神輿を渡したのが我が国最初の神輿渡御と言われ、これが現在まで続く祇園祭の神輿の由来です。

神輿の伝統を守る三若(三条台若中衆)

祇園祭では3基の神輿が出ます。この神輿の担ぎ手として、伝統を守ってきたのが神泉苑の南側の三条通り界わいの旦那衆達による三若(三条台若中衆)です。若衆300人程で活動が続けています。近年は3基の神輿のうち、中御座を三若、東御座を四若、西御座を錦のそれぞれの神輿会が担当しています。

神泉苑大念仏狂言

神泉苑祭で行われる狂言は、「壬生狂言」の流れを汲むものであり、京都市の無形民俗文化財に登録されています。「壬生狂言」は約七百年前、円覚上人が一般の人々に、念仏の妙理と勧善懲悪因果報の道理を分かりやすく伝えるために、身ぶり手ぶりで説法を始めたのが起源と言われています。

神泉苑 観月会